第６期　新宿区多文化共生まちづくり会議 第7回全体会 議事概要

日　時　　令和5年12月22日（金）10:00～12:00

場　所　　しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員　小林委員、伊藤委員、金委員、毛受委員、ゼヤー委員、松田委員、李委員、江副委員、
タイン委員、叔委員、立川委員、陳委員、原田委員、センブ委員、塚本委員、守重委員　１６名

欠席委員　郭委員、申委員、長谷部委員、チャン委員、楊委員、安藤委員、奥田委員、ブサン委員、
コチュ委員、鈴木委員、ドゥラ委員、朴委員、井上委員、宗像委員、佐々木委員、山口委員
１６名

１　開会

２　事務局からの情報提供

・外国人住民の人口推移　・国籍別人口　・在留資格制度　等

事務局からの説明をもとに、委員から意見をいただいた。

・外国人住民の国籍や在留資格は、コロナ前と違ってきているのか。

→国籍は中国が多く、在留資格は留学生が多い。

・地域活動の外国人の参加の状況は。

→地域のお祭りや清掃活動などに参加している。

・コロナのときは留学生がかなり減ったが、現在は、過去の生徒数を上回る勢いである。

３　「地域における多文化共生意識の醸成」について

事務局からの説明をもとに、委員から意見をいただいた。

・新宿区の外国人住民の国籍は約130もあり、多様性に富んでいていることが良いところであり特徴である。新宿区で各国のイベントをやれば、ミニ万国博覧会になる。

・地域センターなどでお祭りをやっているが、交流を深めるためには「多言語のチラシ」が大事である。

・イベントの発信は、日本語学校に向けたＳＮＳやチラシ配りに力を入れると交流が深まると思う。

・日本語レベルＮ２の外国人でも、日本語をしゃべりたくても会話の機会が無い。イベントや清掃活動など気軽に参加できれば、日本語をしゃべる機会になる。

・しんじゅく多文化共生プラザについて、日本語ボランティアだけでなく一般の日本人も利用して交流を深めると、外国人の日本語の練習になる。プラザをぜひ日本人に周知してほしい。

・ミャンマーは言葉も文化も全く違う民族が一緒に住んでいる国である。イベントを一緒にやっており、

いいところと悪いところを学んで、お互い仲よくしている。同様に外国人と日本人が一緒にイベントをやると、日本のルールや習慣を学ぶ機会になる。交流の場を設けるとよい。

・活動団体に予算をつけて、日本語や生活ルールを教えてもらうとよい。

・日本に住んでいる外国人でも、日本語を使わなくて生活できてしまい、日本語ができない人がいる。そういう人にも日本語を教えるべき。

・日本語と一緒に日本文化も学ぶとよい。

・４か国会議は、主に日本、韓国、ベトナム、ネパールの人たちが集まり、情報交換や助け合い、交流を行っている。最近は中国の学生も参加するなど、様々な国の人と交流しており広がってきている。

・大久保地域は外国人が身近にいる。以前は外国の文化を嫌う人もいたが、ここ数年は変わってきている。

・大久保地域では、お祭りに外国人の子供や家族が参加して本当に楽しい、いろんな地域に広がるとよい。

・防災マップなど、どんどん多言語で広げていってほしい。

・日本語教室は、高齢者、子育て世代、仕事で忙しい人など、身近に気軽にできるのがよい。

・ＮＰＯが活動しやすいように応援するとよい。

・お祭りや防災訓練に外国人が参加しても、その後の交流につながらない。徐々につながっている気がするが、すぐには難しい。あきらめないで続けていかないといけない。

・地域イベントの情報をＬＩＮＥなどでお知らせするときに、イベントの事前告知だけでなく、イベントが終わった後に写真やコメントなどを知らせれば「次回は参加したい」と思ってもらえる。

・区内のＮＰＯが一緒に力を合わせて活動すると、財源や人員で役立つと思う。

・実態調査のデータを年齢別や地域別で整理すると、課題解決までのアプローチになると思う。

・情報提供は、チラシの配布よりも、ＱＲコードを活用したスマートフォンでの提供がよい。

・生活ルールやマナーはチラシを見るだけでは覚えづらい。外国人と日本人の交流ができれば、会話の中で知ることができて記憶に残ると思う。例えば、留学生と日本人のマッチングをして、互いの言語で会話をしながら、お互いの文化、マナーを学んでいく機会を提供していくとよい。

・以前は外国人の店員を見て驚いたこともあるが、今は当たり前に感じている。外国人の店員でも普通に仕事をこなしていて、言葉も理解しているので、店員が外国人であるという意識は無い。

・イベントに参加しても、その後の交流につながらないのは、新宿区の多文化共生がある程度のレベルになったのだと思う。日本の街中で日本人同士が会っても、ただすれ違うだけである。また、海外のニューヨークでも、アジア人だからといっても関係はなく、特別扱いもない。

・外国人に情報がなかなか届いていないが、今の時代は情報を届けるというより、自分で取りに行かないといけない。一方、イベントの主催者は、能動的に様々な媒体で情報発信することが大事。

・外国人が差別されないようにするということは、自分たちで評価を上げるということ。

・例えば、区役所で住民登録するときに、車の運転免許のように資料を読ませて、生活ルールの問題事例

に答えてもらう。そこから区民として認めるという方法もよいと思う。

・新宿区のフェイスブックはフォロワーが少ない。フェイスブックを運営するのではなく、フェイスブックに広告を出して情報発信するとよい。

・ベトナム人と日本人の交流会を実施したいので、場所を提供していただけると有り難い。

・新宿区に住んでいるが、地域センターのイベントに行ったことがなく、知らぬ間に終わっている。
留学生がイベントを知っていても気軽に行けないと思う。ハードルを下げて最初の一歩が大事。

・交流する機会を色々なところで作っていければいいと思う。その中で、地域センターは、最初の一歩を踏み出すいいところだと思う。

4　その他

事務局から次回の開催日程を説明した。

5　閉会